

実践⑤ 和泊町立国頭小学校 PTA 読書推進部

1 はじめに

本校は、児童数 84 人、1 学年 1 クラス、特別支援学級 1 クラスの小規模校である。

正門をくぐると、「日本一のガジュマル」と「汐干す母の像」が訪れる人々をやさしく出迎えてくれる。このガジュマルは、明治 31 年に第一回卒業生が植樹したもので、高さ約 7 m・枝張り約 22m・幹回り約 6 mで、枝張りは日本一の大きさと言われる。また、和泊町の町木であり「新日本銘木百選」にも選定された。その日本一の『ガジュマル』の如く、たくましく・美しく、『汐干す母』に学び、くじけず・やさしく」が、本校の教育目標に掲げるキャッチフレーズである。

学校図書館は、楽しく調べ学習ができる本、おもしろくて楽しい絵本や読み物、心豊かにしてくれる本等を常設し、それらを児童一人一人が自ら手にし、読む楽しみを見いだす手助けをする施設だと考えている。児童が関心をもっているテーマ、興味のあるテーマなどを十分に把握し、学校図書館を「学びの場、楽しむ場」として活用し、機能化していくことが重要であると考えている。



また、学校図書館の役割は、利用者としての児童一人一人に読書の機会を提供し、児童を支援する立場を重点的に担当していくことが大切である。そのために、何をどうしていくことが重要であるを考えた、具体的な取組の実践を述べたいと思う。

2 活動の実践

(1) PTA読書推進部活動の推進➡PTA読書推進部との連携

昭和 58 年に発足し、本校児童の能動的な読書推進活動に大きく貢献している。PTA 読書推進部と連携を図ることで、心豊かで本好きな児童の育成に努めている。

<活動の主な取組>

ア 児童書「幸せのカタチ～ガジュマルの樹の下で～」の作成

イ 緑陰読書➡夏休みの読書活動（ガジュマルの木の下等で）

ウ 家庭教育強調週間とタイアップした夜の親子読書会

➡映像機器を使ったペープサート読み聞かせ活動

エ タ読み放送➡全児童が当番制で地域の公民館より行う「本読み放送」



作成した児童書「幸せのカタチ～ガジュマルの樹の下で～」



<お母さんたちの読み聞かせ>



<「日本一のガジュマル」
の木の下での緑陰読書>



<夜の親子読書会>

(2) 魅力ある学校図書館運営

心豊かで本好きな児童の育成をめざすためには、保護者や関係機関との連携も不可欠である。また、秋の読書月間などに児童の興味を引く様々な活動を実施することで、季節に応じた魅力ある図書館運営を行うことができると考える。

保護者や関係機関との連携、読書月間における取組などを紹介する。

ア 図書だよりの発行⇒毎月の図書だよりの「オオミノ花」の発行

本校の図書室をより多くの児童、教師、保護者に知ってもらうため、毎月初めに図書だよりを発行している。国頭小学校のある地名が小字名で“大蓑花”で、また校歌でも歌われているところから、図書だよりを「オオミノ花」としている。

イ 土曜日学校図書室開放⇒毎月2回午前中親子読書のための図書室開放 ウ 親子貸出実施

3 成果

(1) 児童の変容

読書推進部と連携を図って読書活動を充実することによって、更に児童の本に対する興味や世界観が広がってきた。

(2) 受賞歴

- ・平成18年度 鹿児島県図書館協会 優良親子読書会 受賞
- ・平成22年度 鹿児島県奄美支部 優良親子読書会 受賞
- ・平成26年度 鹿児島県「子ども読書活動推進優良団体賞」受賞
- ・平成28年度 子ども読書活動優秀実践校・図書館・実践団体（個人）文部科学大臣表彰



＜平成27年度子ども読書
活動推進優良団体賞＞



＜平成28年度子ども読書活動
優良実践団体文部科学大臣表彰＞

4 おわりに

家庭と連携して読書活動を進めるため、親子貸出の実施など、保護者等の学校図書館利用を可能とする取組をさらに充実させたい。また、学校図書館を地域住民全体の文化施設と位置付け、放課後や週末に他校の児童生徒や地域の方々にも開放する取組などを通じ、地域における読書活動の核として、学校図書館の施設等やその機能の活用を図っていきたいと考える。